

船舶事故調査報告書

平成29年4月20日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等種類	乗揚
発生日時	平成28年10月31日 06時23分ごろ
発生場所	広島県福山市 ^{はしり} 走島北北東方沖の城出シ礁 ^{しろだ} 鴻石灯標 ^{こうのいし} から真方位072° 1.5海里付近 (概位 北緯34° 22.4′ 東経133° 27.3′)
事故の概要	貨物船 ^{アジア} ASIAN POWERは、右転中、城出シ礁に乗り揚げた。
事故調査の経過	平成28年11月14日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	貨物船 ASIAN POWER（パナマ共和国籍）、9,961トン
船舶番号、船舶所有者等	9379870（IMO番号）、MI-DAS LINE S.A.
乗組員等に関する情報	船長（フィリピン共和国籍）、締約国資格受有者承認証 船長（パナマ共和国発給）
負傷者	なし
損傷	船底外板に亀裂及び凹損等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 3、視界 良好 海象：波高 約0.3m、潮汐 低潮時
事故の経過	<p>本船は、船長ほか17人（全員フィリピン共和国籍）が乗り組み、福山港の掘下げ水路（水深16m、以下「本件水路」という。）の南口に向けて約11ノットの対地速力で北西進していた。</p> <p>本船は、船長が、本件水路を北進したのち、本件水路の西側へ投錨する予定であったが、ポータラジオから本件水路の東側に投錨するように連絡を受けたので、本件水路の東側を北進して錨地へ向かうこととし、針路を右に転じたところ、城出シ礁に乗り揚げた。</p> <p>本船の喫水は、船首約2.6m、船尾約4.5mであった。</p> <p>船長は、ポータラジオから錨地変更の連絡を受けた際、海図で錨地までの水路状況を確認していなかった。</p>
分析	本船は、船長が、福山港付近の水路調査を行っていなかったことから、城出シ礁の存在を知らず、同礁に向けて針路を転じて航行し、同礁に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、船長が、福山港付近の水路調査を行っていなかったため、城出シ礁の存在を知らず、城出シ礁に向けて針路を転じて航行し、本船が同礁に乗り揚げたものと考えられる。
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に航行海域の水路調査を行うこと。